

ディービーシート・クライアント

dbSheetClient

■ Excel & Access Web ソリューション



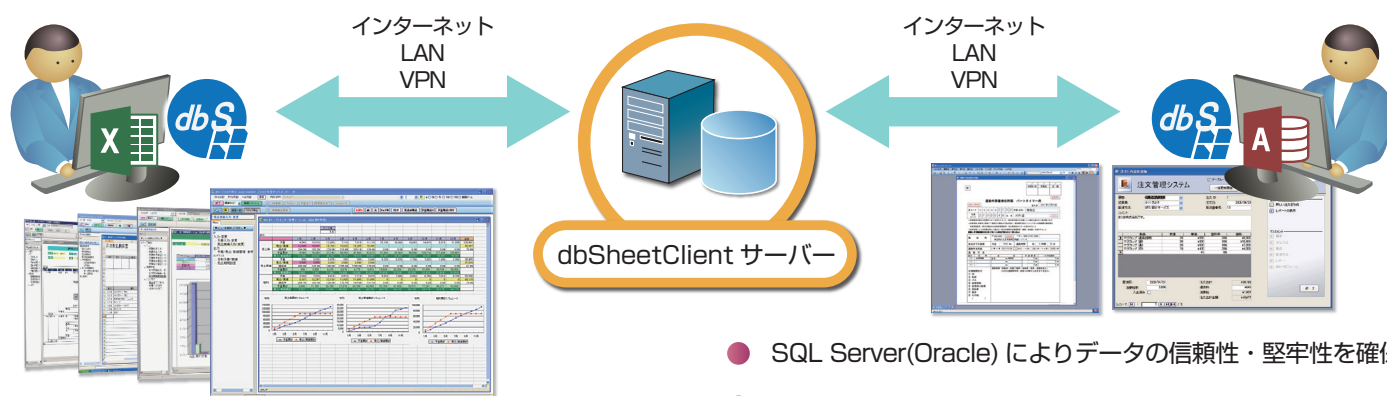
dbSheetClient は、現場で最も普及しているマイクロソフト社の Excel と Access に焦点を当て、これらのアプリケーションにこの製品のフレームをはめ込むことで、容易にリッチクライアント型の Web システムを構築できるソリューションを提供します。

変化の激しい時代環境のなかで、システムのメンテナンスが容易であるとともに、システムの内製化も十分可能なツールです。Web システムを自社開発し、その後のメンテナンスも自社で行うことで、仕様変更に対する迅速な現場対応とキャッシュアウトの大幅削減を実現します。

■ Excel & Access を手軽に最新の Web システムに

● Excel 業務のソリューション

● Access システムのソリューション

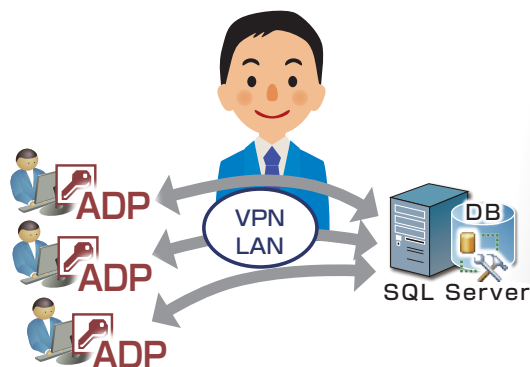


- Excel とデータベース (DB) が直結
- セキュリティの確立が容易
- 分類集計の自動化 (DB 構築の恩恵)
- リアルタイムな情報共有 (DB 構築の恩恵)

- SQL Server(Oracle) によりデータの信頼性・堅牢性を確保
- Access をフロントエンドにした全社規模の Web システム
- 既存の Access を活かし、開発およびメンテナンス工数を大幅に削減
- サーバー版リソース管理機能により企業の内部統制を支援
- Access VBA の技術で Web システムを構築

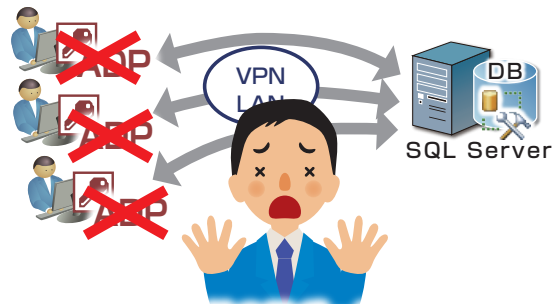
Access ADP の廃止で 悩むお客様に朗報 !!

今まで ADP で快適に処理



しかし、

Access 2013 以降 ADP 対応廃止

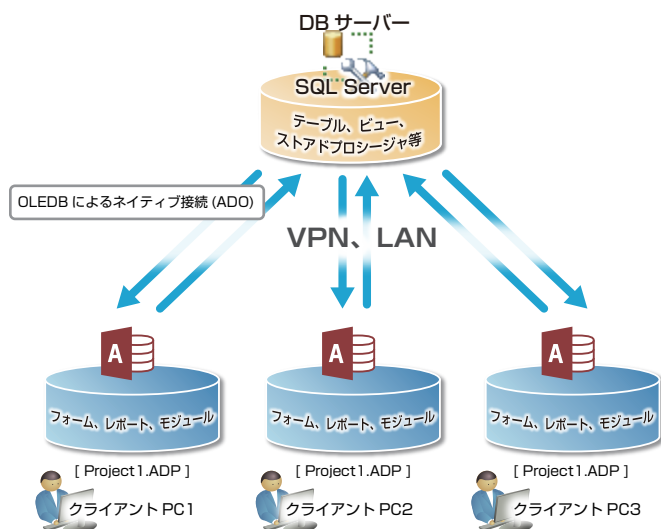


マイクロソフト社のサポート期限が迫る中、
この悩みはますます深刻化...

dbSheetClient は安価で手軽なソリューションを提供します

dbSheetClient により、ADP の資産 (ストアードプロシージャ/ビュー等) を
有効活用しながら多拠点からのアクセスが可能な Web システム化を安価に実現できます。

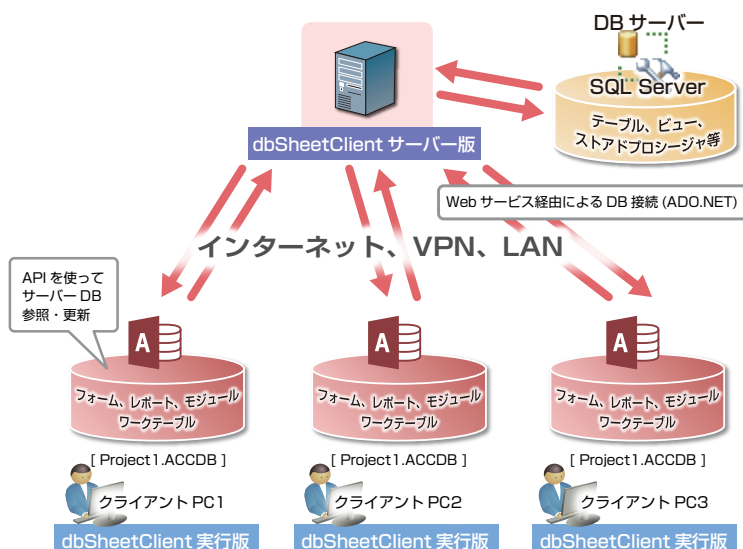
Access-ADP のシステム構成



Access-ADP の特長と問題

- ① ファイル拡張子は .ADP
- ② Access 側にテーブル不在
- ③ 処理速度が速い (最小限のトラフィック)
- ④ Access2013 より ADP 廃止
- ⑤ データの抽出・参照はビュー利用
- ⑥ 参照・追加・更新・削除にはストアド利用

dbSheetClient によるソリューション



dbSheetClient の特徴

- ① ファイル形式は ACCDB
- ② サーバーによるログイン認証
- ③ グループ別 権限管理が可能
- ④ ユーザー操作ログの一元管理
- ⑤ データ更新時の同時実行制御あり
- ⑥ 直接 SQL 実行やストアードプロシージャ実行、及びビューの参照も可能
- ⑦ Access Runtime でも動作可能
- ⑧ Access2010 ~ 2019 に対応可
- ⑨ WAN 回線にも対応 (http, soap)
- ⑩ ACCDB の自動配布機能
- ⑪ SQL Server 2012 ~ 2017 に対応

※ Access はマイクロソフト社の商標または登録商標です。
その他記載の各社の社名、製品名およびサービス名は、各社の商標または登録商標です。

予算積上作成システム

Excel 定型業務で最もポピュラーなのが、予算作成業務です。dbSheetClient の問合せ案件でも最も多い対象は、予算作成業務への活用です。予算作成については、目標予算の裏付けとなる明細項目を月別に予測しながら、それを積上げて作成されるのが一般的手法のようです。この事例では、それがイメージできるようなものになっています。

直接部門の積上範囲

売上
原価
粗利
営業経費
貢献利益
本部費配賦
営業利益

間接部門の積上範囲

売上
原価
粗利
営業経費
貢献利益
本部費配賦
営業利益

損益計算書

売上
原価
粗利
営業経費
貢献利益
本部費配賦
営業利益

予算は部門別に作成されますが、直接部門と間接部門で積上作成する範囲が違います（左図）。この事例では、直接部門は、課長・部長・経理のワークフローで予算が確定されていき、間接部門の積上げは経理が行うことになっています。

《課長》

売上 / 粗利
売上 / 粗利目標
製品区分別目標
顧客別目標
営業経費
勘定科目別計画
積上細目別計画

《部長》

売上 / 粗利
売上 / 粗利目標
製品区分別目標
顧客別目標
営業経費
勘定科目別計画
積上細目別計画

《経理》

本部経理
勘定科目別計画
積上細目別計画
売上 / 粗利 全社
売上 / 粗利目標
製品区分別目標
顧客別目標
営業経費
勘定科目別計画
積上細目別計画

売上 / 粗利と営業経費で積上げ方が違うので

2パターン作っています。課長は自部門の目標予算を積上げて作成し、部長に申請します。

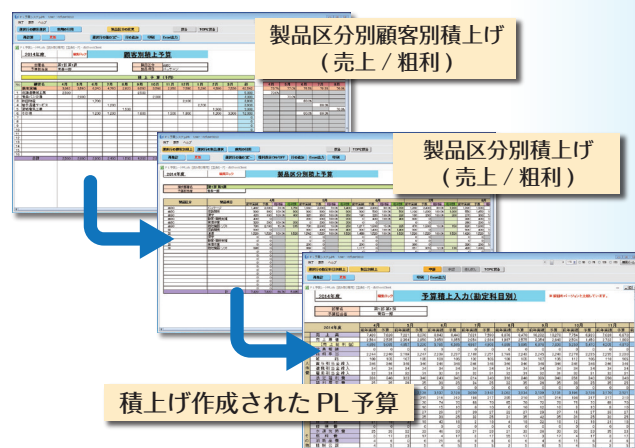
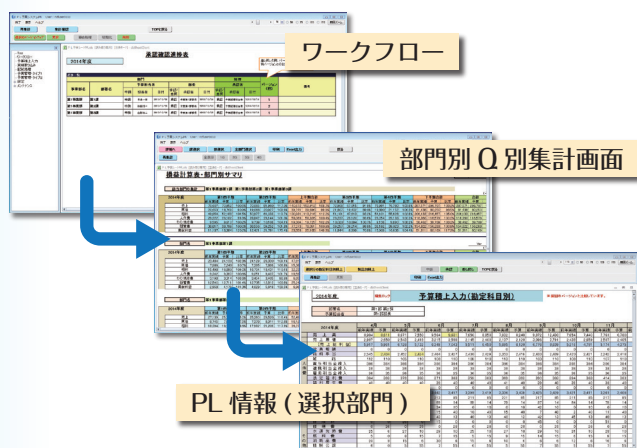
部長は、各課とそれを集計した部の内容を確認し、承認・差戻しを判断します。部長が承認したら次に経理に

申請されます。経理は、各部とそれを集計した全社の内容を経営層とも詰めながら、承認・差戻しを決定していきます。

集計内容確認《部長》

予算積上作成《課長》

予算積上作成の画面事例



PSIシステム

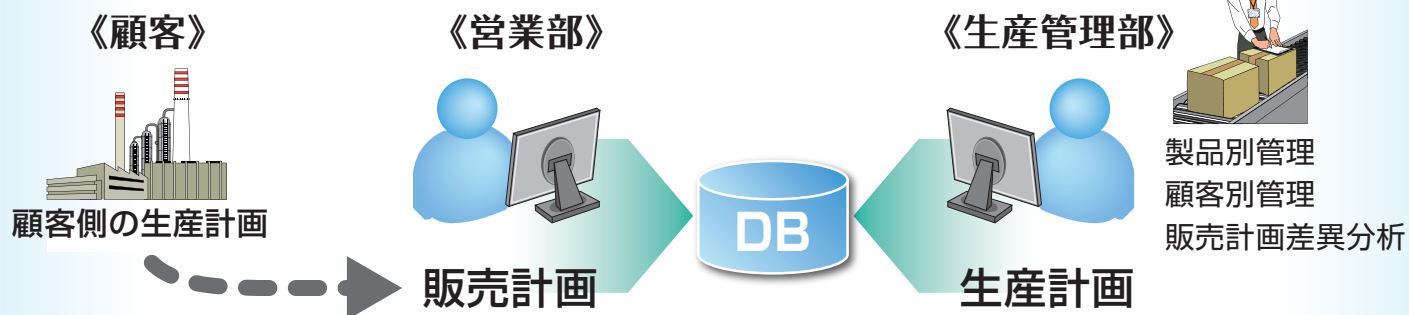
PSI : Production Sales Inventory, Purchase Sales Inventory

現在のように変化が激しい世界環境であり、製品のライフサイクルも短くなってきている時代に、最適在庫を維持しながら、販売機会損失や在庫ロスの撲滅を図るのは大変難しくなっています。PSI(生産 / 販売 / 在庫)計画業務は、この課題に取り組むためのものです。

多くの企業では、この業務を Excel の定型業務で行っています。ここで、Excel 定型業務と言っているのは、Excel ブックを標準化して、同じ業務をする人たちに配布し、定期的に回収して、全社的に情報共有したり、集計分析するような業務のことを言っています。

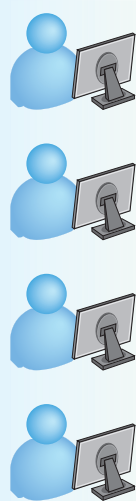
従って、業務遂行にあたり、Excel の定型業務の問題点をまともに受けてしまいます。これに対して、dbSheetClient は、最適なソリューションツールとなります。すなわち、Excel ブックのデータとデータベースを直結したシステムが構築できますので、今までブックの集配信や集計等煩雑だったオペレーションの自動化や組織間のリアルタイムな情報共有が可能となります。この事例では、PSI 計画業務を営業部と生産管理部のリアルタイムな情報共有化を通して、その大幅な効率化と精度向上を実現していることが確認できます。

組織間の情報共有



各営業が製品別に販売計画を入力したデータを基に、生産管理部では、製品別集計、顧客別集計、工場別集計や週次の計画変更による差異分析が、ワンタッチで得られるようになっています。また、営業の販売計画入力も Excel の編集機能を有効活用できるため、カレンダーテーブルの入力画面に快適にデータを入力することができます。

PSI 計画システム画面事例



販売計画入力

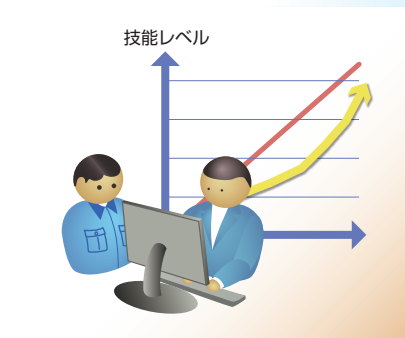
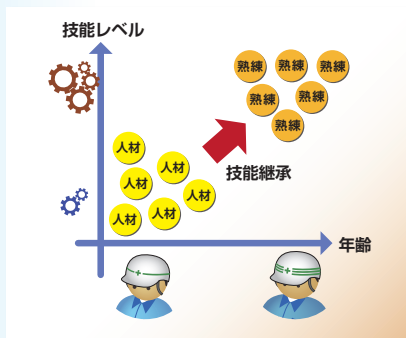
製品別集計

週次計画差異分析

能力評価管理システム

一般的な能力評価システムの構築目的

- 1 継承レベルの把握を行い、熟練技能の継承を促進する。
- 2 人材の技能情報のデータベース化と必要人材の把握を強化する。
- 3 目標管理や人事評価の支援システムとして活用する。



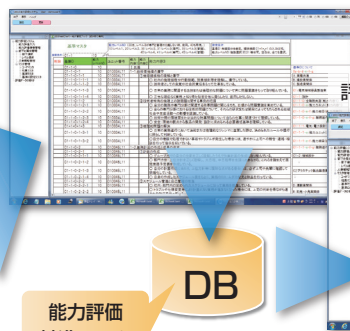
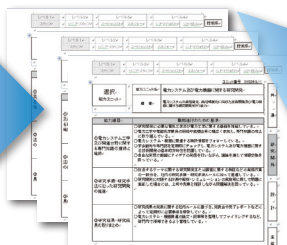
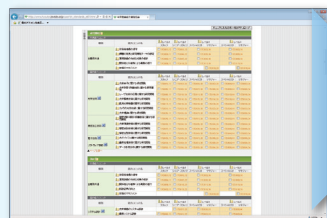
職業能力評価基準 : 中央職業能力開発協会 (JAVADA) の能力評価基準を活用

中央職業能力開発協会の Web サイトから能力評価基準をダウンロードできる画面

46 業種、230 職種能力評価基準を蓄積

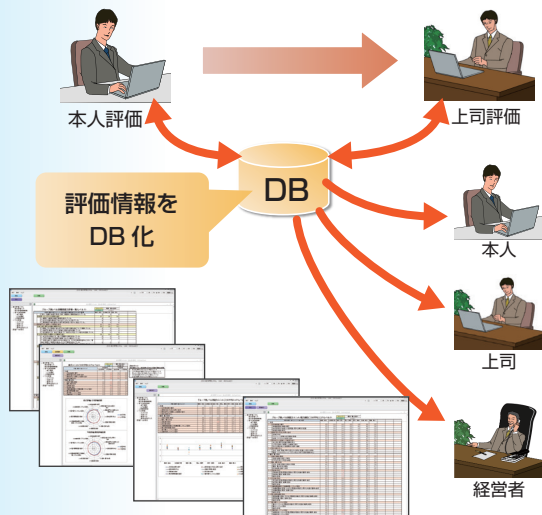
能力評価基準マスタメンテナンス画面

評価シート画面 (評価シートを自動作成)



- 1 評価基準見直しによる評価基準変更もマスタ変更のみで評価シートに自動的反映
- 2 新評価シートの社員への配布やそれに伴う管理も全て自動化

システム運用により得られる効用



- 1 前回の結果を参照しながら、今回の評価を行える。
- 2 本人・上司とも、評価シートの管理から、解放される。

- 1 前回と今回の実績確認が随時行える。
- 2 自分の能力評価のバランスをレーダチャートより確認できる。

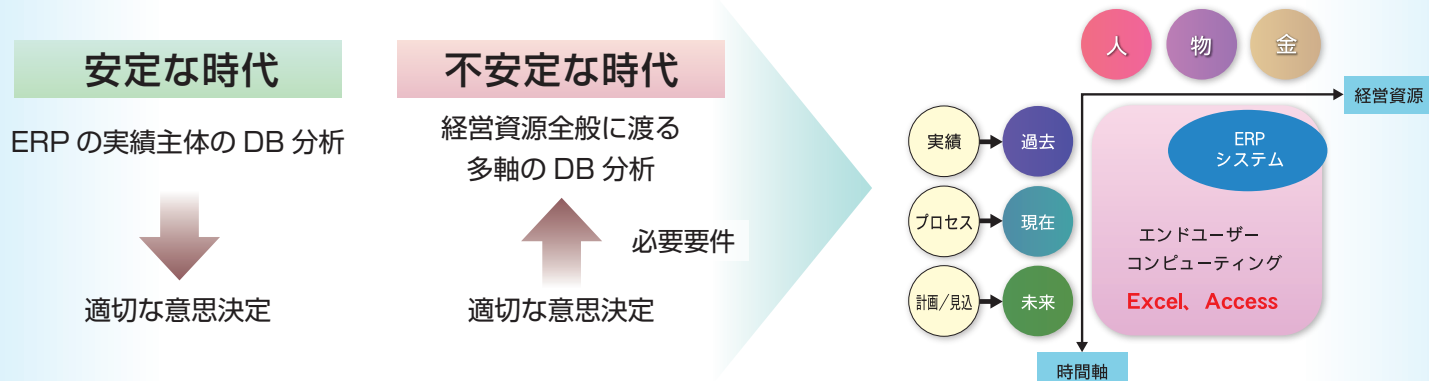
- 1 過去 5 回の評価結果から、その部下の成長性を確認できる。
- 2 同レベルの全社員の内容とその部下の位置関係が、確認できる。

- 1 職務・レベル別に戦略的必要人員数と在籍人員数の比較ができ、人材の過不足の状況把握ができる。
- 2 評価実績データを活用して、在籍人員の評価状態を確認することができる。

現場データのDB化

Excel Access Web ソリューション dbSheetClient

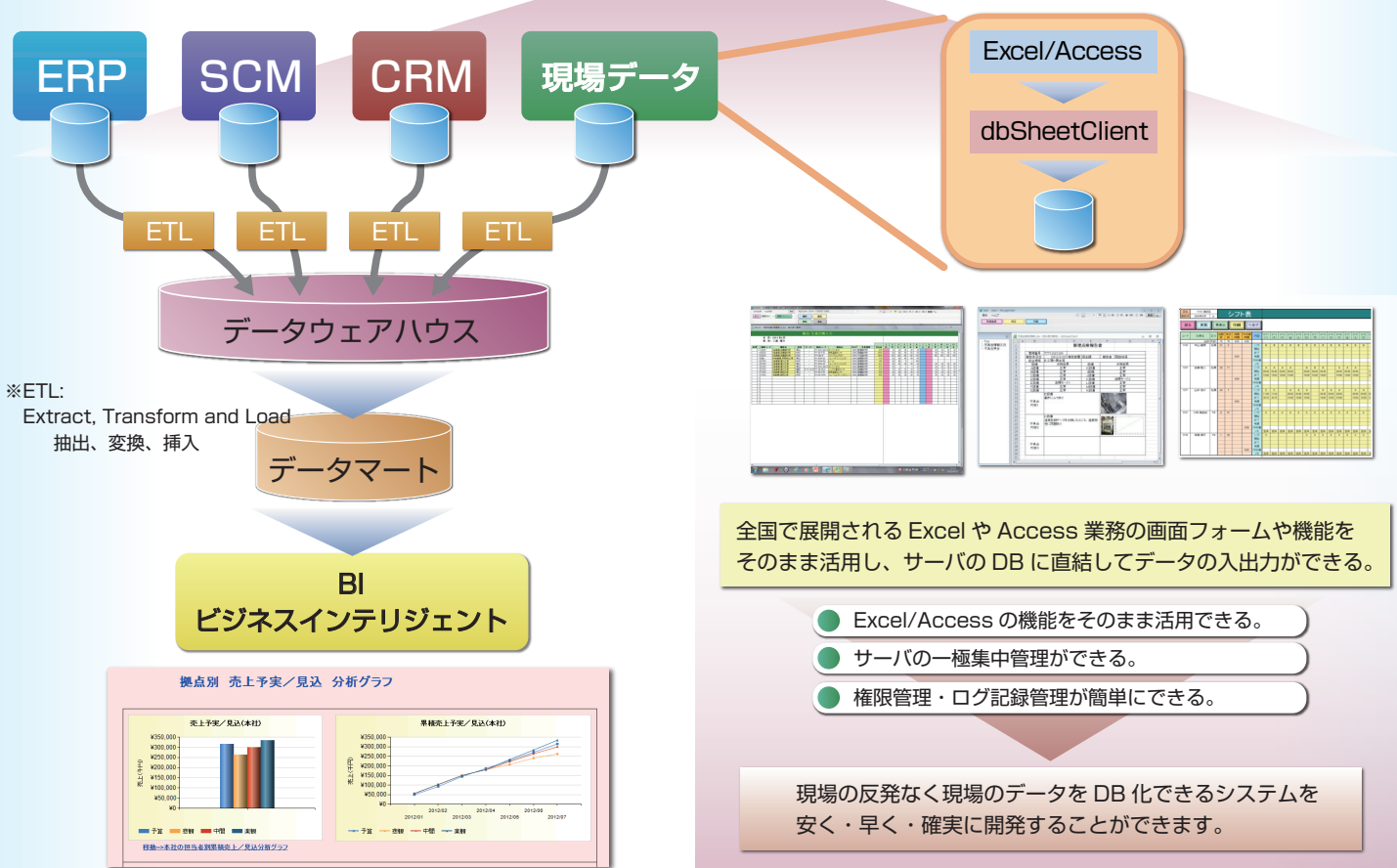
不安定な時代の意思決定には、現場データのDB化が不可欠



安定だった時代に比べ、意思決定には多くの軸のデータが必要になってきている。

意思決定用分析ツールのBI(ビジネスインテリジェンス)も有効に機能するためには、必要なDBが揃っていることが前提。

統合データによる意思決定支援システム



プロジェクト スケジュール / 原価管理

ガントチャートによるスケジュール管理 とプロジェクト原価管理

スケジュール管理

プロジェクト別スケジュール管理

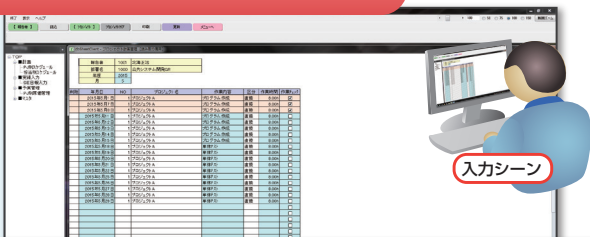


SE 担当者別スケジュール管理



プロジェクト別及び SE 担当者別スケジュールをガントチャートで設定します。
どちらで設定してもそれぞれに反映できるようになっています。

日報入力



入力シーン

各 SE が当日に行った作業実績を日報にて報告します。この場合、日報には、ガントチャートで立てた予定のある日にはその内容が自動入力されています。実績が、予定と違う場合のみデータ修正、または追加をすることになります。そして、報告処理 (レチェックして「更新」ボタンを押す) がされれば、セルの色が変わるようになります。

なお、この日報データは、後の実績集計の元データとなります。

プロジェクト別見積 / 実績原価管理



開発部門マネージャー

どの物件が納期が危ないんだ？

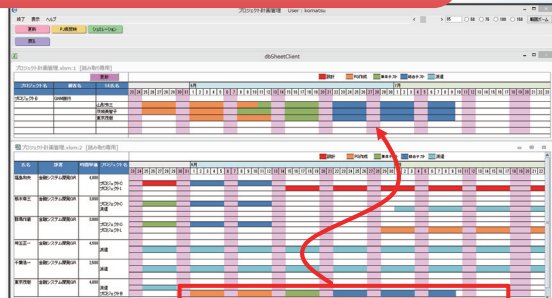
プロジェクト別にガントチャートより得た見積データと日報により得た実績データの状況を工程別に把握することができます。見積 / 実績データは、作業工数と金額の両方を扱っており、進捗率を入力することで進捗リスクを計算しています。この指標により、納期遅延や原価超過になる確率の高いものを割り出すことができます。

計画見直し及びシミュレーション

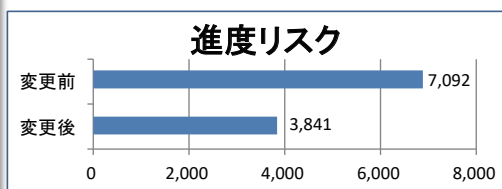
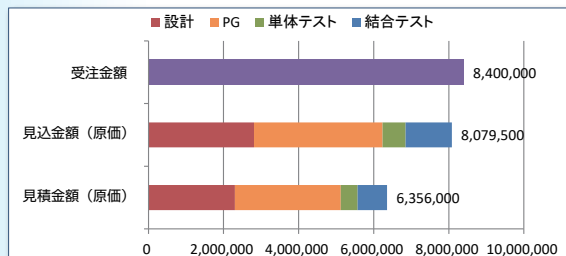
進捗リスクによる物件のソーティング



進捗リスクによりソーティングすることにより、ハイリスクなプロジェクト順に並べ替えます。そして、計画見直しをしたいプロジェクトを選択します。



選択されたプロジェクトの現状のスケジュール状況を確認します。そして、画面分割により、同部署の SE の空き状況を確認し、適切な SE を支援要員として追加します。



一応、計画見直し後の進捗リスクと原価の変化を再計算することができ、最終的な状況がどうなるかの目安をみて、最終判断をすることができます。

Excel対応の開発環境

dbSheetClient の開発と開発版の概要

開発ステップ

プロジェクト決定

要件定義・仕様決め

DB 設計

Excel のフォーム作成

dbSheetClient 各種定義

デバッグ

仮運用

プロジェクト公開 (up load)

実行版で運用開始

ノンプログラミング方式なので簡単です。

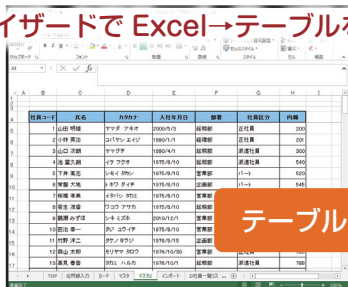
基本画面

アプリケーションのメニュー、ボタン、タスクの設定を行う開発版の基本画面です。タスクの中の、SQL 設定、データの展開設定などの詳細設定も一つの画面内で設定できます。

- ・豊富なタスクタイプで複雑な処理も開発可能
- ・開発者の作業効率の向上を追求し続けます。
- ・ロギング機能の充実でデバック効率向上を図れます。

dbSheetClient 開発版の定義編集で使える便利な機能

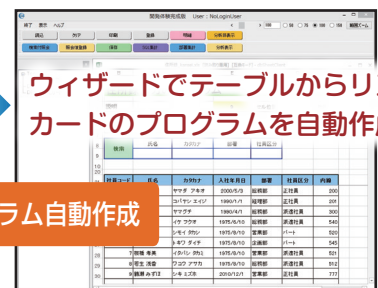
ウィザードで Excel→テーブルを自動作成



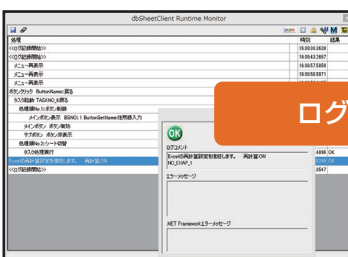
テーブルメンテナンス



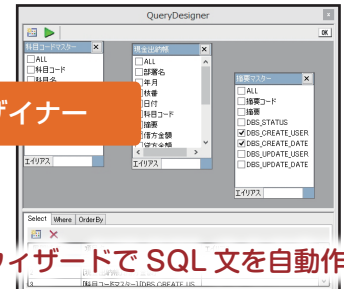
IOTG プログラム自動作成



ログモニター



クエリデザイナー



デバッグ時の実行ログをモニタリング

ウィザードで SQL 文を自動作成

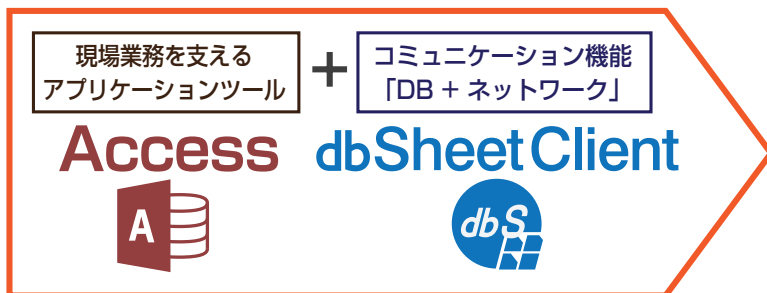
※Excel はマイクロソフト社の商標または登録商標です。
その他記載の各社の社名、製品名およびサービス名は、各社の商標または登録商標です。



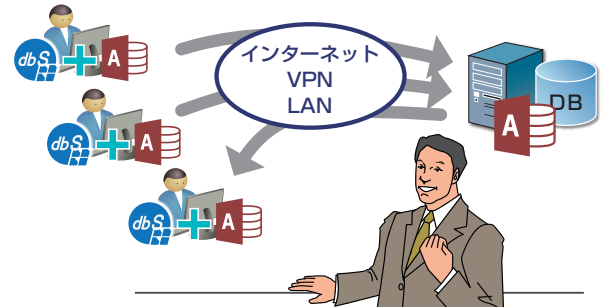
株式会社ニューコム <https://www.newcom07.jp/>

Access 対応の開発環境

Access 対応版の概要



Access プログラム資産の Web システム化



※ Access に習熟している方は、VBA を使って Access プログラム資産を安く、早く、確実に Web システム化することができます。

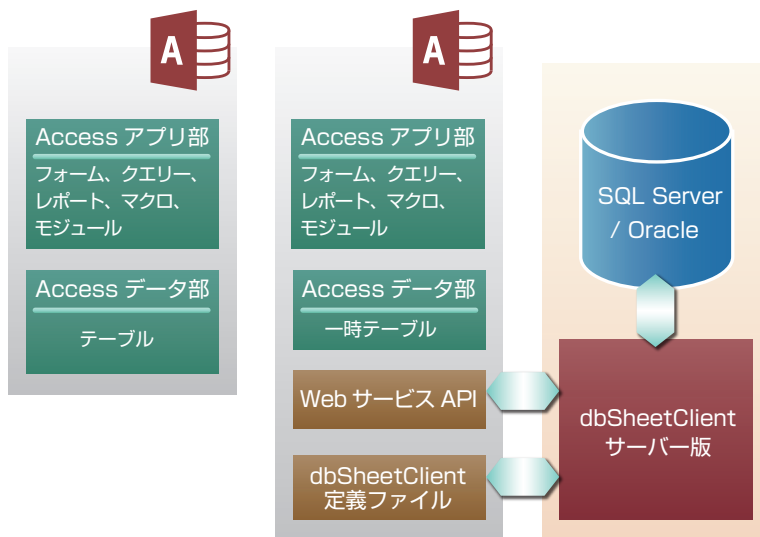
Access 対応版で出来ること

- Access をフロントエンドにした Web システムの構築
- dbSheetClient サーバーによるリソース管理機能をフルサポート
- 開発した Access プログラム (ACCDB) の配布の自動化
- サーバー同時アクセスに対する排他制御をサポート



Access 対応版の開発の特徴

従来の Access → Access 対応 (dbSheetClient)



- Access VBA 技術で Web システムを構築
- 既存の Access アプリ部 (フォーム、クエリ、レポート等) を有効活用
- VBA から Web サービス API を介してサーバー機能を利用

Access 対応版 得られるメリット

- 既存の Access 資産を、簡単に Web システム化できます。
- Access 技術者は新たな開発言語の習得は不必要です。
- Access プログラムの配布の自動化により、運用コストを削減できます。
- ACCDB の壊れやすい、重くなるという問題から解放されます。

対応する MS-Access のバージョンは Access2010, Access2013, Access2016, Access2019 です。
それ以前のバージョンについては、別途 ㈱ニューコムにご相談ください。

※ Access はマイクロソフト社の商標または登録商標です。
その他記載の各社の社名、製品名およびサービス名は、各社の商標または登録商標です。

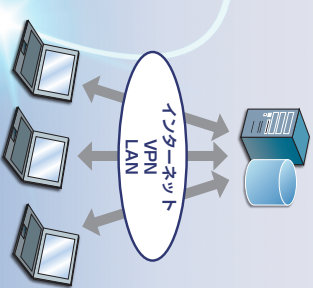
Excel の業務を安く・早く・確実に Web システムへ！

Excel or Access



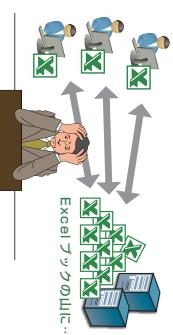
Web システム化

dbSheetClient (データベース・クライアント) を使うと、Excel や Access の業務は通常に行いながら、入力したデータは全て Microsoft SQL Server や Oracle に登録されます。

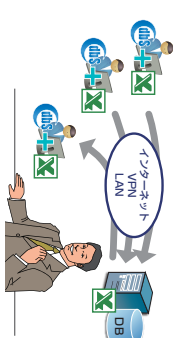


Excel 業務の Web 化

● Excel 業務の定型化運用段階



● Excel 業務の Web システム化



現場データを Excel フックで管理

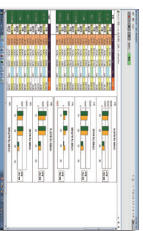
- ・ファイルレベルの情報の共有化
- ・信頼性のあるデータ管理が困難
- ・フックを超えた集計処理が厄介
- ・リアルタイムな情報共有が困難

現場データをサーバ DB で管理

- ・Excel とデータベース (DB) が直結
- ・セキュリティの確立が容易にできる
- ・分類集計の自動化 (DB 構築の恩恵)
- ・リアルタイムな情報の共有化 (DB 構築の恩恵)

● Excel 画面事例

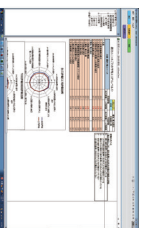
損益モニター



生産計画管理システム (PS)

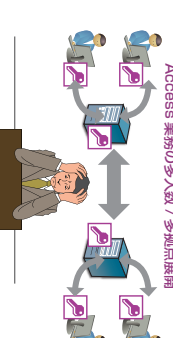


能力計画管理システム

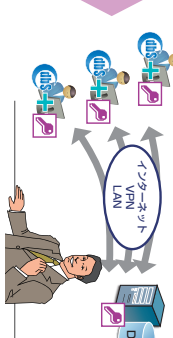


Access 業務の Web 化

● Access のクライアント・サーバ運用段階



● Access 業務の Web システム化



現場データを MDB ファイルで管理

- ・複数アクセスでファイル破損が発生しやすくなる
- ・データ量の増大に伴い処理速度が極端に遅くなる
- ・情報漏洩等セキュリティ対策が打てない
- ・多く人数で運用では運用管理に多大な労力を要する

現場データをサーバ DB で管理

- ・API を使い dbSheet サーバのフル機能を活用
- ・最新プログラム (MDB) の配布・更新の自動化
- ・SQL Server、Oracle でデータの信頼性・堅牢性を確保
- ・Access VBA の技術で Web システムを構築

● Access 画面事例 ※一宮運輸株式会社様の事例より

通関 / 作業実績データ



見積管理



顧客管理

